

筑波大学大学院研究科・専攻における人材の養成に関する目的及び その他教育研究上の目的について

平成22年5月18日

大学院教育会議

本学大学院の研究科・専攻における、人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的（以下「人材養成の目的」という。）は、以下のとおりである。

1. 人文社会科学研究科の人材養成の目的

【博士前期課程】

人文社会科学の基礎研究に優れた能力を有し、当該分野の学問的進展や社会的要請の変化に応え得る独創性と柔軟性を併せもつ、高度の専門性を備えた職業人を養成し、また、当該分野の後期課程への進学希望者に対して、より高度な研究への基礎力を獲得させることを、目的とする

【博士後期課程（一貫制博士後期課程を含む。）】

人文社会科学の基礎研究・応用研究に優れた能力を有し、かつ人文社会科学分野の学問的進展や社会的要請の変化に応え得る独創性と柔軟性を併せもつ研究者・教育者、高い実務能力を有する高度専門職業人を養成することを目的とする。

専攻名	人材養成の目的
哲学・思想専攻 (一貫制博士課程)	哲学、倫理学、宗教学・比較思想学の各専門分野において、高度の専門的知識と国際的・学術的な視野をもち、すぐれた研究教育能力を備えた研究者・教育者の養成、並びに哲学・思想の専門分野において高度の専門的視野をもつ高度専門職業人の養成を目的とする。
歴史・人類学専攻 (一貫制博士課程)	歴史学と人類学の両分野における各専門領域の探求を軸として、独創性と高度な研究能力を備えた学究型の研究者・教育者の養成、並びに研究成果を社会に還元できる実践型の高度専門職業人の養成を目的とする。
文芸・言語専攻 (一貫制博士課程)	言語及び文学の両分野における基礎研究の深化・充実を図るとともに、言語研究と文学研究の融合によって、言語と文学の個性や方法論的差異を超えた独創性と研究能力を有する研究者・教育者の養成、並びに言語と文化に関する深い理解と豊かな学識を備えた高度専門職業人の養成を目的とする。
現代語・現代文化専攻 (区分制博士課程)	<p>【博士前期課程】</p> <p>現代文化、言語情報の両分野において、現代の世界が内包する諸問題を見定め、分析し、解答へと導きうるような思考力・研究力を備え、高度な専門知識をもって社会で活躍しうる人材、さらに高度な研究者を志向する人材の養成を目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>現代文化、言語情報の両分野において、現代の世界が内包する諸問題を見定め、分析し、解答へと導きうるような思考力と研究力を備え、かつ、そこで得</p>

	た知見をもって世界と結びうる発信力と言語能力を備えた研究者・教育者、高度専門職業人の養成を目的とする。
国際公共政策専攻 (区分制博士課程)	<p>【博士前期課程】 政治学、社会学、国際関係学（国際政治経済学）、社会開発の4分野の専門知識を基盤とし、グローバル化、複雑化する現代の国際問題や社会・文化問題に柔軟に適用できる幅広い知識と実践的な能力を身につけた人材、さらに高度な研究者を志向する人材の養成を目的とする。</p> <p>【博士後期課程】 政治学、社会学、国際関係学（国際政治経済学）、社会開発の4分野の専門知識を基盤とし、グローバル化、複雑化する現代の国際問題や社会・文化問題に対し、政策提言や問題解決の方策を提言できる柔軟な思考力と実践的な研究能力を備えた研究者・教育者、高度専門職業人の養成を目的とする。</p>
経済学専攻 (区分制博士課程)	<p>【博士前期課程】 国際的水準の経済学の基礎的知識と応用部門に柔軟に適用できる幅広い知識を身につけた人材、さらに高度な研究者を志向する人材の養成を目的とする。</p> <p>【博士後期課程】 経済学の基礎的知識を基盤とし、グローバル化、複雑化する現代の社会問題や国際問題に対し、政策提言や問題解決の方策を提言できる柔軟な思考力と研究能力を備えた研究者・教育者、高度専門職業人の養成を目的とする。</p>
法学専攻 (区分制博士課程)	<p>【博士前期課程】 基本的な法学の知識を基盤に特定の法分野における高度の専門性と実務能力を身につけた人材、さらに高度な研究者を志向する人材の養成を目的とする。</p> <p>【博士後期課程】 法学の学問的進化に対応しうる独創性と柔軟性を併せもつ研究者・教育者、高度専門職業人の養成を目的とする。</p>
国際地域研究専攻 (博士前期課程)	現代日本を含む世界の諸地域を教育研究できる人材、国際社会で活躍できる高度な専門職業人の養成を目的とする。
国際日本研究専攻 (博士後期課程)	国際的な視野のもとに現代日本を教育研究できる研究者・教育者、高度専門職業人の養成を目的とする。

2. ビジネス科学研究科の人材養成の目的

本研究科は、ビジネスの分野における高度専門職業人の養成・再教育に関する社会的要請に応えるため企業や社会が直面する新たな類型の問題について、総合的かつ高度な判断能力を持ち、適切な解決策を提示できる高度専門職業人の養成及び高度に専門性を有する社会人を主たる対象とする法曹の養成を目的とする。

専攻名	人材養成の目的
経営システム科学専攻 (博士前期課程)	ビジネスの変革、技術の複雑化に伴う新たな経営課題に対応可能な高度専門職業人の養成を目的とする。
企業法学専攻 (博士前期課程)	企業法学の分野における高度専門職業人の育成・再教育の社会的要請に応えて、企業が直面する法的諸問題について適切な解決策を提示できる法学的専門能力を有する高度専門職業人の育成を目的とする。
企業科学専攻 (博士後期課程)	高度専門職業人の養成・再教育に対する社会的要請に応え、企業や社会が直面する新たな類型の問題について、総合的かつ高度な判断能力を持ち適切な解決策を提示できる人材の養成を目的とする。
国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)	国際社会や文化の多様性を理解した上で、経営者として適切な行動を導くことができる知識・技能・資質をもった経営専門職、特に、経営に関するコア力量を持つビジネスマネジャー、国際対応力量に秀でたカントリーマネジャー、応用情報技能に秀でたプロジェクトマネジャーの3タイプのマネジャーを系統育成することを目的とする。
法曹専攻 (専門職学位課程「法科大学院」)	社会人を主たる対象とし、実務に密着したオールラウンドな教育にも配慮した、高度に専門性を有する法曹の養成及び未修者、既修者を区別せず、3年間で法曹として必要な能力を身につけることを目的とする。

3. 数理物質科学研究科の人材養成の目的

【博士前期課程】

本研究科の博士前期課程においては、幅広く深い学識の涵養を図り、専門分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培うことを人材養成の目的とする。

【博士後期課程（3年制博士課程を含む。）】

博士後期課程及び3年制博士課程においては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを人材養成の目的とする。

専攻名	人材養成の目的
数学専攻 (区分制博士課程)	<p>【博士前期課程】 純粋数学から応用数学まで幅広い視野を持った国際的研究者、次世代の教育界を担うべく数学力を十分に備えた教育指導者、および社会第一線で数理科学的な能力を存分に発揮できる高度専門職業人等の人材を養成する。</p> <p>【博士後期課程】 きめ細かな教育と最先端の数学研究を通じて、国際的に活躍できるグローバルスタンダードな研究者を育成し、また教育界や産業界などの社会的指導者として高度な数学的知識を様々な分野に応用できる人材を養成する。</p>
物理学専攻 (区分制博士課程)	<p>【博士前期課程】 自然科学の基礎である物理学について基礎的な知識と幅広い視野を持ち、専門</p>

	<p>分野における独創的な研究能力と柔軟な応用力を具えた研究者・高度専門職業人を養成する。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>最先端の物理学研究を主体的に遂行することを通して、自ら課題を設定し問題を解決することができる高度な専門性を獲得し、独創的な研究能力と柔軟な応用力を具えた、自立した研究者・高度専門職業人を養成する。</p>
<p>化学専攻 (区分制博士課程)</p>	<p>【博士前期課程】</p> <p>化学専攻では、電子、分子のレベルで物質の構造、反応を解明し、自然界における化学現象の理解を深めると共に、新物質の創成とそれらの持つ新しい機能の発現に関する研究・開発の分野で、独創性と世界的視野を持つ人材の養成を目的としている。特に、前期課程では、高度専門職業人として、さまざまな専門分野における研究の担い手となる人材を養成する。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>化学専攻では、電子、分子のレベルで物質の構造、反応を解明し、自然界における化学現象の理解を深めると共に、新物質の創成とそれらの持つ新しい機能の発現に関する研究・開発の分野で、独創性と世界的視野を持つ人材の養成を目的としている。特に、後期課程では、産学の化学分野の学術、応用研究の推進や発展に貢献できる高度に専門的な研究能力をもつ人材を養成する。</p>
<p>物質創成先端科学専攻 (区分制博士課程)</p>	<p>【博士前期課程】</p> <p>計算科学フロンティア分野、分子化学フロンティア分野、物質物理フロンティア分野における講義、セミナー、実験などの教育を通して、学際的な発想を持つ独創性豊かな優れた研究者の育成や近年の社会的要請である高度専門職業人の育成を目的としている。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>物理学、化学、応用物理学、物質科学等の広い分野の内から、計算科学フロンティア分野、分子化学フロンティア分野、物質物理フロンティア分野といった科学の最先端（フロンティア）を開拓する3つの分野を抽出・融合し、新しい学問分野を創成する優れた研究者及び多角的で柔軟な思考力を有する創造力豊かな高度専門職業人の養成を目的としている。</p>
<p>電子・物理工学専攻 (区分制博士課程)</p>	<p>【博士前期課程】</p> <p>電子・物理工学専攻前期課程では、物理学を基礎とした応用物理計測、ナノ工学、電子デバイス等の技術分野において、高度専門分野の理解と発展に欠かすことのできない基礎能力を持ち、10年、20年先の技術分野の開拓と発展に携わることのできる専門職業人を養成する。先見性、創造性豊かで優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者の養成を目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>電子・物理工学専攻後期課程では、光工学、計測工学、粒子線工学、ナノ工学、半導体工学の分野において、研究および技術開発を先導する創造性豊かな</p>

	優れた研究・開発能力を持つ研究者等を養成、および高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人を養成することを目的とする。
物性・分子工学専攻 (区分制博士課程)	<p>【博士前期課程】</p> <p>博士前期課程では、研究者・技術者として自立するために必要な基礎学力と研究能力を備え、量子物性、量子理論、材料物性及び物質化学・バイオ工学等の物質工学における専門分野についての研究を行い得る研究者、基礎研究能力を持って社会に貢献できる高度職業人の養成を目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>博士後期課程では、研究者として自立するために必要な研究能力を備え、量子物性、量子理論、材料物性及び物質化学・バイオ工学等の物質工学における専門分野についての深い知識と高度な研究を行い得る研究者、高度な研究能力を持って社会に貢献できる高度職業人の養成を目的とする。</p>
物質・材料工学専攻 (3年制博士課程)	<p>【3年制博士課程】</p> <p>広範な物質・材料を網羅し、先端装置を用いた実際的な研究経験を通じて、物質・材料工学分野における優れた研究者ならびに高度な研究型専門職業人を養成することを目的とする。</p>

4. システム情報工学研究科の人材養成の目的

本研究科は、「システム」、「情報」、「社会」の融合を目指した新しい学際分野における教育と研究を志向します。従来の枠にとらわれない分野横断的で普遍的な考え方に基づいて、科学的・工学的な専門知識と最先端の方法論の教育を行うことにより、グローバルで広い視野を持ち、多様な考え方ができ、主体性をもってチームワークを推進できる人材、また現実世界の複雑な問題を解きほぐすことができる柔軟で独創的な発想力を備えた人材の育成を目指します。

専攻名	人材養成の目的
社会システム工学専攻 (博士前期課程)	複雑な社会現象を科学的・工学的に解明し、価値創造（イノベーション）と問題解決を図ることのできる基礎的方法論を身につけた指導的専門職業人及び高度な社会システムの創出・構築に関する学術的貢献をし得る研究者の育成を目的とする。
経営・政策科学専攻 (博士前期課程)	複雑な現代社会における企業や公的組織の経営及び政策課題に対してグローバルな視野と科学的思考で挑戦し、高度専門職業人として産業界及び公共部門をリードする人材を育成する。
社会システム・マネジメント専攻 (博士後期課程)	全地球的な環境激変の中で、時代を先駆ける社会システム・企業理念の創出・実現を担う人材を育成する。具体的には、21世紀の社会システム・企業理念に関わる、独創的な方法論を創出できる研究者、ならびに、グローバルな社会システム動向を捉え、時代に立向かう新しいシステムの実現を牽引するリーダーとして、実務遂行を担える高度な専門職業人の輩出を目指す。

<p>リスク工学専攻 (区分制博士課程)</p>	<p>【博士前期課程】 多様なリスクを科学的・工学的な方法により解明できる高度な技術を持つ研究者及び実社会で活躍できる人材の輩出を目標とする。このため、リスク解析・評価のための基礎理論や関連情報処理技術を習得していると同時に、リスクに関する現実の問題について豊富な知識と関心を持ち、これらの問題に対して広い視野と強いリーダーシップをもって問題設定から工学的手段による解決までの一連のプロセスを理解し、プロジェクト運営能力を発揮して具体的な解決手段を考案・開発することができる等の基本要件を満たす人材を育成する。</p> <p>【博士後期課程】 多様なリスクを科学的及び工学的な方法により解明できる高度な技術を持つ研究者を養成し、社会で活躍できる人材の輩出を目標とする。このため、博士前期課程の基本要件についてより高度な水準の能力を備えるとともに、プレゼンテーション・コミュニケーション能力に優れた国際的に通用性の高い研究者及び高度専門職業人レベルの人材を育成する。</p>
<p>コンピュータサイエンス専攻 (区分制博士課程)</p>	<p>【博士前期課程】 コンピュータサイエンスの教育研究を通じて、情報技術の多様な分野に関して深い専門性を持ち、独創性と柔軟性を兼ね備え、国際的にも通用する知識と専門的研究能力及び実務能力を併せ持つ人材を育成することを目的とする。特に、博士前期課程では、様々な問題を解析及び解決する基本的な能力を持ち、これを実社会で応用できる実践力を持つ人材の育成を図る。</p> <p>【博士後期課程】 コンピュータサイエンスの教育研究を通じて、情報技術の多様な分野に関して深い専門性を持ち、独創性と柔軟性を兼ね備え、国際的にも通用する知識と専門的研究能力・実務能力を併せ持つ人材を育成することを目的とする。特に、博士後期課程では、対象とする情報学の研究分野において、高度な水準の専門性を兼ね備え、先導的な役割を果たせる国際的な研究能力を持った人材の育成を図る。</p>
<p>知能機能システム専攻 (区分制博士課程)</p>	<p>【博士前期課程】 研究科の学修の目標にそって、人間、コンピュータ、機械、センサ及び通信の各分野に関する基礎理論を身につけ、それらを広い視野に立って有機的に統合するシステムを構築することのできる専門技術者の育成を目指す。</p> <p>【博士後期課程】 人間、コンピュータ、機械、センサ及び通信のうち、複数の分野にまたがる幅広い問題解決能力を身につけ、それらに関連する研究プロジェクト等における企画、管理、運営及び人材養成ができる研究者及び高度専門職業人の育成を目指す。</p>
<p>構造エネルギー工学専攻 (区分制博士課程)</p>	<p>【博士前期課程】 機械、建築、社会基盤、エネルギー、航空宇宙等の工学分野のいずれかにおいて</p>

	<p>て高度の専門知識を有するだけでなく、関連分野の課題を横断的な視点から捉え、本質的な問題を抽出して独自の解決方法が提案でき、その成果を国の内外に効果的に発信できる能力を有する研究者及び高度専門職業人の育成を目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>機械、建築、社会基盤、エネルギー、航空宇宙等の工学分野のいずれかにおいて高度の専門知識を有するだけでなく、関連する周辺分野に関する横断的な視野や国際的な情報発信能力を備え、研究プロジェクトの管理運営を適切に行い、社会で主導的な役割を果たすことができる研究者及び高度専門職業人の育成を目的とする。</p>
--	---

5. 生命環境科学研究科の人材養成の目的

ライフサイエンスと環境は、21世紀のサイエンスで最も重要な分野であり、大学院教育には、国際的にも研究開発と問題解決能力を持つ人材、優れた教員や科学コミュニケーター、環境コミュニケーターの育成が求められている。専門分野の深い知識と研究能力、研究技術をもち、一方で、生命、人間、これらを取り巻く基盤である地球、自然環境、社会環境を幅広い視点でとらえ、独創的な発想で研究課題を発掘し、課題を解決する能力を持つ研究者と教育者、高度専門職業人を養成する。

専攻名	人材養成の目的
地球科学専攻 (博士前期課程)	後期課程につながる研究者・高度専門職業人育成の基礎を確立するとともに、地球科学に関わる専門的知識を活かせる専門職業人や、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材養成を目的とする。
生物科学専攻 (博士前期課程)	多様性生物学、細胞生物学、分子生物学の3領域において独創的な研究の遂行に必要な研究能力と豊かな学識を持つ研究者および高度職業人の養成を目的とする。
生物資源科学専攻 (博士前期課程)	農林生物学、農林社会経済学、生物環境工学、応用生命化学の4領域とバイオシステム学コースにおいて、高い専門的研究能力と学識を兼ね備えた研究者および幅広い専門知識を持ち社会貢献する高度職業人の養成を目的とする。
環境科学専攻 (博士前期課程)	地球生態系を理解する重要な観点である循環と環境について、国際的視野を持って理解し、人類が直面している環境問題を科学的に解決するための学際基礎の学識と企画実施力ならびに課題設定力を確立させ、持続可能な人間環境を実現する実践力をもつ研究者や高度職業人の養成を目的とする。
地球環境科学専攻 (博士後期課程)	地球環境の構造と変化を科学的に追究する専門的研究者・大学教員の育成と、地球環境や地域に関するさまざまな課題に対処しうる高度専門職業人の養成を目的とする。
地球進化科学専攻 (博士後期課程)	地球惑星の誕生から現在に至る進化史の統合科学的探求を基礎とし、地質学、古生物学、岩石学、鉱物学等とこれらの関連分野において、世界水準の研究を理解し、これに新たな知見を加えることのできる社会の指導的・中核的人材な

	らびに社会において、より実践的な職業を担うための十分な知識を有する人材育成を目的とする。
構造生物学専攻 (博士後期課程)	生命が 40 億年をかけて築き上げてきた進化的所産としての生物の構造と機能、さらに細胞、組織、個体、集団、群集の各レベルにみられる生物多様性の理解を目指して世界をリードする独創的な研究を行う研究者および高度職業人の養成を目的とする。
情報生物学専攻 (博士後期課程)	基礎生命科学研究領域において、豊かな人間性と高度な専門的知識・能力を元に、世界をリードする先進的かつ創造性の高い優れた研究を推進できる生物科学者、教育者および知的・高度専門職業人を養成することを目的とする。
生命共存科学専攻 (一貫制博士課程)	理想的地球環境の創生を提言する研究領域における独創的な研究者と、様々な環境問題に柔軟に対応できる高度専門職業人の養成を目的とする。
国際地縁技術開発科学専攻 (博士後期課程)	国内、海外の農村地域開発や自然生態環境保全の領域において、専門的理論と実践的で柔軟な問題解決能力を兼ね備えた研究者や高度専門職業人を養成することを目的とする。
生物圏資源科学専攻 (博士後期課程)	学際性と専門多重性に配慮したカリキュラム編成によって、地球規模での生物資源の利用と保全、並びに生物圏環境の管理と創成に関わる高度な専門知識と実践力および国際性を兼ね備えた研究者の養成を目的とする。
生物機能科学専攻 (博士後期課程)	生物の有する機能の解明とそれらの開発・利用に関する分野において、基礎から応用までを見渡せる広い識見と学際性を有し、独創的な研究で国際的に活躍できる研究者およびこの領域に寄与できる高度専門職業人の養成を目的とする。
生命産業科学専攻 (博士後期課程)	社会への人材アウトプットを強く志向した特色あるカリキュラム編成の下、ポストゲノムサイエンスに始まりゲノム創薬・再生医療・機能性食・バイオレメディエーション等といった生命産業に関連した様々な分野において高度な専門的知識と学術性を備え、かつ各種資格、特許を取得しうる国際的にも活躍できる高度専門職業人としての実務型博士の人材育成を目標とする。
持続環境学専攻 (博士後期課程)	グローバルかつローカル（グローカル）な視点に立脚して人間環境の連環的相互作用の動態とそこにひそむ持続可能性のメカニズムを解明し、なおかつ持続可能な環境文明を実現するために、高度な学際深化の学識とそれらを融合させて活用し、応用する実践力をもって国内外で活躍できる実務型研究者と学究型研究者の養成を目的とする。
先端農業技術科学専攻 (3年制博士課程)	先端的な農業技術にかかわる研究開発や現場への応用・普及を総合的かつ大局的視野で展開し、直面する諸問題を解決しながら国内外の農業の発展に貢献できる研究者ならびに高度専門職業人の養成を目的とする。

6. 人間総合科学研究科の人材養成の目的

本研究科は、心身に関する基礎から応用までの豊富かつ高度な教育研究を通して、それぞれの固有の学問領域においてさらに高度な研究を計画実行できる研究者、及び「人間」に関する幅広い知識をもち優れた学術研究を計画実行できる研究者、さらに複合的な視点から人間を捉え柔軟且つ適切な援助を設計し実行できる高度専門職業人を養成することを目的とする。

専攻名	人材養成の目的
フロンティア医科学専攻（修士課程）	本専攻は、医科学の包括的基盤教育と実践的で社会的ニーズに対応した幅広い医科学関連領域の教育研究を行い、修了生が多様な進路に進んで、研究者・教育者あるいは高度専門職業人として、安心して健康な社会の実現と維持のために活躍する人材となるように育成することを目的とする。
スポーツ健康システム・マネジメント専攻（修士課程） － 夜間大学院－	本専攻は、スポーツ・健康に関する政策課題や社会的ニーズに対応して、専門的かつ高度な指導力を発揮できる人材を育成することを目的とする。
看護科学専攻（博士前期課程）	本専攻は、学際的および国際的な視点に基づき、看護について科学的に分析し、研究者として研鑽する姿勢の育成を目的とする。また、看護の高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者、および看護学教育を支える看護教育者を育成することを目的とする。
看護科学専攻（博士後期課程）	看護の専門的知識、技術を有することに留まらず、常に研究マインドを持ちつつ看護実践を検証していく能力、さらには看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる能力を備えた世界に通用する看護学の臨床・管理、教育・研究、政策・行政分野のリーダーを育成することを目的とする。
教育学専攻（博士前期課程）	本専攻は、教育学の幅広い高度な知識と技能を修得するとともに、教育学の理論と実践とを統合した新しいカリキュラムと教授法の下で、教育の本質と現実的課題を問いつける研究姿勢と基本的な研究方法、時代の要請に応える実践力を身につけた教育学研究者の育成を目的とする。
教育基礎学専攻（博士後期課程）	本専攻は、教育学研究に必須の広範な教養に基づき、本専攻を構成する各分野に求められる研究水準を把握し、さらに教育学の基幹領域である「教育基礎学」に関する高度な研究手法を習得することにより、最先端の教育学研究の地平を切り開き、教育の本質を探究することに貢献する研究者の養成を目的とする。
学校教育学専攻（博士後期課程）	本専攻は、最先端の学校教育学研究の地平を切り開き、同時に学校教育の深刻な実践的課題の解決に必要な高度化された学術的判断力を系統的に身につけた研究者及び学校教育に関わる政策立案者やカリキュラム開発者の育成を目的とする。
心理専攻	心理学の基礎研究の成果および方法論を社会に還元できるような、有為な人材

(博士前期課程)	を養成する。具体的には、臨床心理士、感性工学・人間工学に関わる専門家、社会調査および市場調査など社会心理状況を分析する専門家、人事管理・人事評価に関わる専門家、高度な専門性を持った公務員の育成を目指す。
心理学専攻 (博士後期課程)	本専攻は、知覚・認知心理学、教育・発達心理学、社会心理学の分野における先端的な研究を行うとともに、学術研究・教育者あるいは高度専門実務者として研究・教育に当たる人材を養成することを目的とする。
障害科学専攻 (博士前期課程)	本専攻は、障害科学の理論を体系的に学び、かつ高度職業人としての幅広い支援技術の修得をめざすとともに、後期課程に進学し障害科学に関する研究者となる人材を養成することを目的とする。
障害科学専攻 (博士後期課程)	本専攻は、最先端の障害科学を先導し、かつ現代的課題に対応する研究能力を備えた研究者及び高い問題解決能力をもつ障害関連の高度専門職業人を養成することを目的とする。
生涯発達専攻 (博士前期課程) －夜間大学院－	本専攻は、生涯発達領域における現場的課題の科学的解決に関わる実践的の高い高度専門職業人を養成することを目的とする。
生涯発達科学専攻 (博士後期課程) －夜間大学院－	本専攻は、ライフキャリア発達における諸課題を包括的、組織的に解決する研究型高度専門職業人を育成することを目的とする。
ヒューマン・ケア科学 専攻(3年制博士課程)	本専攻は、新しい融合科学であるヒューマン・ケア科学を普及させ、学問としての質的向上を図り、将来の当該領域の人材となる研究教育者を養成するとともに、ヒューマン・ケア科学研究を身につけ、実践の課題を解決できる高度専門職業人を養成することを目的とする。
感性認知脳科学専攻 (博士前期課程)	本専攻は、学際的視点に立って、人間のこころに関連した融合的研究課題を多角的に解析できる研究者と教育者、さらに多方面の知識と専門技術を社会で応用できる実践力を持ち、それぞれの組織で指導的牽引力となって複合的問題を解決できる高度専門職業人を養成することを目的とする。
感性認知脳科学専攻 (博士後期課程)	本専攻は、学際的視点に立って、人間のこころに関連した広範な研究課題を多方向から解析でき、その成果を社会に向けて有効な形で還元し、社会に対するオピニオンリーダーとしての役割を担うことができ、国際性が培われた研究者・教育者を養成することを目的とする。
スポーツ医学専攻 (3年制博士課程)	本専攻は、包括的なスポーツ医学教育を行い、スポーツ医学の研究と教育を担う人材を育成し、スポーツ医学の発展に貢献するすぐれた専門家およびこれを支える研究者を養成することを目的とする。
生命システム医学専攻 (一貫制博士課程) －医学の4年課程－	科学的討論と敬愛の精神の徹底によって、創造的理性と協働の精神に富む個性豊かな先導的生命医科学研究者・教育者と生命医科学の知識、技術、およびコミュニケーション能力を駆使して社会に貢献する人材を育成する。
疾患制御医学専攻	本専攻は、疾患制御の発展に寄与できる臨床医学研究者を育成することを目的

(一貫制博士課程) －医学の4年課程－	とする。
体育学専攻 (博士前期課程)	本専攻は、学校や社会における体育・スポーツ・健康の諸問題を現代の科学技術の発展を踏まえて合理的に解決し科学できる高度専門教養を身につけた高度専門職業人養成とともに、後期博士課程への進学希望の学生に対応した研究者養成を目的とする。
体育科学専攻 (博士後期課程)	本専攻は、体育科学の専門分野について自立して研究活動を行う能力を備えた大学の教育研究者と、高度の専門性が求められる社会で活躍し得る研究能力を持った高度専門職業人養成、及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的とする。
コーチング学専攻 (3年制博士課程)	本専攻は、高度職業人レベルのスポーツ指導者を指導できる、コーチングに関する確かな実務能力と高度の研究能力を兼ね備えた実務型博士を養成することを目的とする。
芸術専攻 (博士前期課程)	本専攻は、幅広い視野で造形芸術に関わる知識・実技の専門研究を行い、社会において指導的役割を果たすことのできる高度専門職業人・研究者を育成・再教育することを目的とする。
芸術専攻 (博士後期課程)	本専攻は、造形芸術に関する幅広い学識と高度の研究能力をもつ研究者、ならびに卓越した専門的知識・実技能力を有する高度専門職業人を養成することを目的とする。
世界遺産専攻 (博士前期課程)	本専攻は、遺産保護の実務に必要な方法論、マネジメント能力、および保存・保全に関する技術的・科学的判断能力を修得することにより、国内外の遺産保護・活用に係わる高度職業人として社会的要請に応えうる人材養成を目的とする。
世界文化遺産学専攻 (博士後期課程)	本専攻は、多様な条件と環境におかれた世界遺産特に世界文化遺産の保護および管理活用に関し、学術および技術の分野で高度な研究能力をもって国際的要請に応えうる人材養成を目的とする。

7. 図書館情報メディア研究科の人材養成の目的

【区分制博士課程】

本研究科図書館情報メディア専攻は、情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を進展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材の養成を目的とする。

博士前期課程においては、情報提供サービス分野においてリーダーシップを発揮できる幅広い知識と実践的な能力を身につけた人材、あるいは図書館情報メディア分野の研究者を志向する人材を養成する。

博士後期課程においては、知識情報社会のフロンティアを切り拓くことのできる研究者や高度専門職業人を養成する。

8. 教育研究科の人材養成の目的

教育の普遍的課題と現代のさまざまな教育課題に対処しうる、高度な専門性を有し、優れた教育実践力とともに、教職への情熱と使命感を持ち、スクールリーダーシップを備えた高度専門職業人としての教員を育成することを目的とする。

専攻名	人材養成の目的
スクールリーダーシップ開発専攻（修士課程）	スクールリーダーシップ開発専攻は、学校における教育活動や組織・運営に関する総合的識見と高度の経営能力を有するマネジメント型リーダー、及び、学校における子どもの学習と生活に対する総合的な支援を企画・運営する専門職型リーダーの養成と継続教育を目的とする。
教科教育専攻（修士課程）	教科教育専攻は、深い教育的識見と高度な専門的能力及び実践的指導力を備え、主として中等教育において指導的役割を果たすことができる研究的実践者としての教員の養成を目的とする。
特別支援教育専攻（修士課程）	特別支援教育専攻は、特別支援教育において、豊かな人間性と科学的思考を兼ね備え、教育実践を内省的に検証し、より高次の教育活動を展開していける高度専門職業人としての教員養成を行うことを目的とする。